

## (熊本県立北稜) 高等学校 平成25年度学校評価表

1 学校教育目標					
「教育は人なり」の理念のもと、「率先垂範、師弟同行」を旨として、全職員相互の研鑽及び指導法の創意工夫を図り、一人一人の生徒の健全育成に邁進する。					
1	伝統ある校風の継承と創造	2	特色ある総合高校づくり	3	学力の充実と個に応じた進路指導
4	教育環境づくりの推進	5	人権教育の推進	6	安全教育の推進
7	地域社会から信頼される学校づくり				

2 本年度の重点目標					
1	愛情ある生徒指導	2	基礎学力の定着	3	個に応じた進路指導
4	美しい環境作り	5	安全教育の推進	6	家庭・地域社会との連携強化

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	職員の資質向上	教科指導力の向上	学習意欲を喚起する授業展開を工夫し、基礎学力の定着を図る。	研究授業や公開授業を毎学期実施して、相互に研鑽する。参観を義務づける。	B	研究授業・公開授業の参観者が昨年より増え、生徒の実態に合わせた教材の選定や授業展開の工夫が進んだ。指導と評価の一体化を進める必要有り。
		生徒指導力の向上	生徒一人ひとりの理解に努め、人格形成を支援する。	カウンセリングマインド等に関する職員研修を実施する。	B	出身中学校や支援学校への相談など関係機関との連携を図ることができた。その成果を研修し、評価方法を改善した。しかし、授業の質が保証できないという課題も表面化してきた。
	保護者との信頼関係の構築	保護者と積極的にコミュニケーションをとり、信頼を得られる教育実践を使命感を持って行う。	課題を先送りにせず、迅速かつ組織的に対応する。特に配慮を要する生徒には、個々に応じた誠実な対応を心がける。	A	・家庭への連絡や家庭訪問などをこまめに行い、課題の解決を図った。 ・学校からの連絡が家庭に届いていないことも多く、連絡の周知徹底が課題である。	
	開かれた学校づくり	保護者・地域住民との連携	学校行事に保護者等に多く参加してもらう手立てをする。地域からの要請にできる限り応じながら、学校の取り組みを理解してもらう。総会・学年総会の出席率70%以上を目指す。	・学校の行事や学習の成果などについて、こまめな情報の発信を心がける。 ・農産物の販売や奉仕作業など、地域住民に生徒の活躍する姿を見ていただく機会を増やす。	B	・ブログの更新など学校ホームページの充実を図った。 ・学年別の清掃活動や農産物販売など、地域の方から好評を得た。 ・保護者会の出席率が70%まで上がった。2学期の保護者会の工夫が必要である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	学習習慣の育成	基礎学力の定着	北稜タイムを有効に活用し、学習に落ち着いて取り組む雰囲気醸成する。	週末には家庭学習課題を与え、普通教科の学力向上を図る。専門教科でも参観しやすいよう共通主題を設定する。	B	・北稜タイムの活用・研究授業の参観者増など基礎学力定着に向けた取り組みがスタートできた。授業改善の意識を持続させることが課題である。
	学力の向上	個別指導や発展的な学習指導の推進	授業が分からない生徒への対応に積極的に取り組む。欠点科目保持者をゼロに近づける。	・考査前指導・個人指導を充実させる。 ・欠点科目保持者には長期休業中に補講を実施し、理解力の向上に努める。	A	・考査前の学習指導や提出物・課題等の管理など生徒の実態に合わせた指導ができた。 ・成績不振者対象の長期休業中の学習会では熱心に受講する姿勢が見られ、一定の成果があった。 ・成績上位者をのぼすシステムが確立されていない。
進路指導	進路意識の啓発	進路の早期決定と目的意識の啓発	各学年・学科の連携と継続した進路指導を展開する。	・進学ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に積極的に参加させる。	B	・インターンシップや現場実習は職業観の育成に役立った。 ・低学年からの系統立った進路指導を強化しなければならない。
	進路希望の達成	進路目標実現の進路保障	就職・進学体制の確立と進路目標達成100%を目指す。	・受験対策のため、進路目的別の課外を実施する。 ・国公立大学希望者への早期の指導と小論文・面接指導を充実させる。 ・職場開拓を積極的に行い、就職希望者の早期決定を確実にする。	B	・2学年の2学期から就職対策の課外を開始し、意欲の喚起に結びつけた。 ・3年生の進路決定の意欲喚起が不十分で、進路目標100%の決定率は達成できなかった。 ・組織的な指導に改善の余地がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	清々しい整容	整容指導にかかる継続指導の対象者をなくす。	整容指導に対する統一した意識を全職員が持ち、厳しい中にも愛情を持って粘り強く指導する。	B	・粘り強く指導することで清々しい整容が整ってきた。 ・職員間で統一した意識を完全には持ち得ておらず、生徒や保護者に困惑を与える場面があった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	マナーの向上	あいさつや目上の人への言葉遣い・公衆道徳等を身につけさせる。	積極的なあいさつや公共の場におけるマナー向上を機会あるごとに指導する。	C	自発的にあいさつをしない生徒への指導が徹底できなかった。学校近隣の方からマナーの悪さを指摘されることもある。部活動での指導を足がかりに改善を進めていく。
人権教育の推進	学校全体で取り組む人権・同和教育の推進	人権教育の内容の充実	人権意識の確立を促す。	講演会やLHRを通して人権について考えさせる。	B	自殺防止・いじめ根絶にむけ、講演会やLHRに取り組んだ。不適切なメールの書き込みなどへの対応が十分ではない。
		職員研修の充実	人権・同和教育に関する研修を通して人権感覚を磨く。	人権感覚を磨くための講演会や講話を実施するとともに、研修会への参加を促す。	B	研修を通して生徒への思いを深くすることができた。生徒の話に傾聴する姿勢が涵養されてきた。
		特別支援教育の体制づくり	心身に課題を抱える生徒の支援を行い、学校への適応を促す。	・職員の共通理解のもと、特別支援教育コーディネーターを中心とした組織作りを行う。 ・関係機関との連携を強化する。	B	・生徒状況の情報交換の場を設け、より細やかに対応する体制が整ってきた。 ・関係機関との連携が進み、専門家の方からアドバイスをいただきながら生徒への対応を進める場面が増えた。
安全管理	学校の安全と危機管理の徹底	教職員の共通理解	安全教育・安全管理体制を確立する。	・安全（防犯）教育・防災教育を実施する。 ・教職員の研修会を実施する。	C	・生徒の怪我などには適切に対応できた。 ・避難訓練で、現場での初期対応に不備があるとの指摘を受けた。 ・鶏舎における衛生管理が課題である。
		実行ある安全管理マニュアルの策定	施設設備の点検整備と教職員による校舎内外の巡視	・安全管理マニュアル（救急対応等）の理解と周知を図る。 ・定期的な安全確認（安全点検）や日常的な校舎内外の巡視を行う。	B	・安全管理マニュアルを刷新し、周知を図った。さらに徹底が必要である。 ・安全点検は定期的に実施できたが、外回りの施設への点検が徹底できていなかった。

#### 4 学校関係者評価

生徒・保護者・職員へのアンケート調査の結果をもとに御意見をいただいた。

- ① 学校と家庭における役割分担に関するアンケート内容に含めてはどうか。家庭で指導できない服装などについて、過剰に学校に要求していないか。そのデータをもとに家庭への協力依頼も必要ではないか。
- ② 生徒の研究発表を聞くと、専門教育のすばらしさを知ることができる。中学校に出向いて卒業生が発表する機会を模索する必要がある。何しろPRが必要。
- ③ いじめ防止の組織体制は、生徒が主体となるべき。生徒会の撲滅宣言や定期的な啓発活動を年間計画の中に取り込む必要がある。
- ④ 不祥事防止については、学校や職場でも研修を実施しているが撲滅には至っていない。手詰まり感があるが、報告の徹底や組織として参加者どうしでチェックする体制の確立が必要である。

#### 5 総合評価

生徒や保護者へのアンケート調査結果から、本校の教育活動に対して一定の評価をいただいた。服装面での職員の指導に対する意識と生徒・保護者間の考え方にズレが生じている。これは生徒との対話や学校と家庭の情報共有が不足しているためと考えられる。学校の教育方針を保護者会などで十分に説明し、学校の理解者を増やす取り組みが必要である。また、現在、在学している生徒を個で捉えるのではなく、卒業生の力を借りて指導することで線として母校愛を育む必要がある。

#### 6 次年度への課題・改善方策

◎充実した学校生活のため、生徒一人ひとりの理解に努め学校への適応を図る。

- ①関係機関との連携のもと諸課題の解決を図る。
- ②基礎学力の定着・基本的な生活習慣の確立・高校生活の目的の意識付けを強化する。  
(授業研究の更なる充実と上位層生徒を伸ばす指導体制の確立)
- ③特に学力の不足している生徒に対しては個別指導を重視し、定期考査前や長期休業中など学力の向上を図る。
- ④系統立った進路ガイダンスの改善  
(1・2年生も含めた学力検討会をとおして情報を共有するとともに個別指導の充実を図る)

◎保護者や地域の方の学校への理解を深める。

- ①保護者総会など保護者会の日程調整をこまめに行い、学校に来ていただく機会を確保する。  
(参加者が激減する2学期の保護者の在り方を検討する)
- ②育友会新聞や学校ホームページなどの充実を図り、学校の情報を適宜発信していく。